



にじのうた

の詩



千葉市立千城台西中学校  
学校だより 13号  
令和8年3月10日(火)

令和7年度千城台西中学校だより「虹の詩」は原則、毎月初めに発行し、学校の情報をお知らせしてまいります。

なお、ホームページにもアップしています。

## 千城台西中学校 第56回 卒業証書授与式

### 校長式辞

寒さ、暖かさを繰り返す日々の中、ようやく春の気配を感じられる頃になってきました。春の到来は、夢や輝く未来を感じさせ、新たな門出を祝っているようです。

本日、千葉市立千城台西中学校 第56回卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご多用のところ、千葉市教育委員会 竹治 哲也様をはじめ、ご来賓の方々、並びに保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与された 96名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。一人一人の引き締まった表情の中に、中学校3年間を、立派にやり遂げたという満足感と、新しい世界へ旅立つ、力強い決意を感じ取ることができました。先ほどお渡しした卒業証書は、義務教育の9年間を終えた証ではありますが、そこには皆さんの名前と誕生日が書かれています。

名前は親御さんからの最初大切な贈り物であり、そこには『こんな人になってほしい』という願いが込められています。私も2人の子供がいますが、名前を付けるときに、個々の漢字の意味や画数など、いろいろ考えて決めた懐かしい思い出があります。新しい旅立ちに際し、是非自分の名前にある願いを、改めて知ることいいかもしれません。また、誕生日、卒業証書に書かれている日に、皆さんは生まれ、家族や親せきの人たちから、多くの祝福を受けて誕生したはずです。その尊い命は、生まれたその日からたくさんの人が見守ってくれ、支えてくれていました。皆さんは、自分にとって一番大切な人は、一番身近にいることに、もう気付いているはずです。『ありがとう』という感謝の気持ちを、素直に言葉にできる人になってほしいと願っています。

また15年前と言えば3月11日、いわゆる「3・11」東日本大震災の年でもありました。この年に生まれた皆さんは一生震災の年に生まれた人たちという枕詞がついてくると思います。私はこの日、卒業式を無事に終え、同僚の教員と学区を車でパトロールしていた時にこの地震を体験しました。道路が波を打つように動き、シートベルトをしているのに車の天井に頭がぶつかるくらいのすさまじい揺れを感じました。日本は地震の多い国であり、近年は温暖化の影響もあり、自然災害も多くなりました。自分が生まれた年に起こったこの大きな震災をしっかりと見つめなおして、身近なところから安全対策や家族との連携を深めていってほしいと思います。

集会の時にこの壇上で学級目標の話は何度かしたかと思えます。今のクラスがスタートした4月に、みんなでのこの学級をどのように成長させたいか、話し合っただけ大切な目標です。

#### 1組 『リミッター 限界をぶち破れ』

最高学年として、常に自分たちの限界を超えていくことを目標にしたものでした。

#### 2組 『ファースト ペンギン』

リーダーになることが多い3年生として、勇気をもって最初の一步を踏み出したいという思いで目標にしました。

### 3組『3K 感謝・感激・感動』

様々な場面で、小さな感謝や感動を積み重ねていくことで、感激する卒業式を迎えられるように決めました。

### 5組『TKG』

楽しく仲良く、クラス一丸となって頑張るクラスを目指すためにつけました。

今のクラスの様子を見て達成することができたでしょうか。この1年間を一番長く過ごした仲間との最後の振り返りを、思い出と共に考えてほしいと思います。また仲間と共に過ごした3年間では、たくさんの大切な時間を共有しました。先週の予餞会でも2年生が披露してくれましたが、SGの『僕らまた』は自然教室のテーマソングでした。嵐の『ハピネス』は1年前の予餞会でハンドダンスを発表した時の曲でした。多分5年、10年先でも、街角やテレビでこの曲を耳にしたときに、『あの時の・・・』と当時ことを思い出すことでしょう。ハンドダンスの振りを思わずやってしまう人もいるかもしれません。3年生の皆さんと学年の先生方しかわからない思い出であり、大切な時間を一緒に過ごせた証であると言えます。

私の大好きな曲の一つである ゆずの「栄光への架け橋」は、壮行会の後のお昼の放送でも流しました。「誰にも見せない泪があった 人知れず流した泪があった 決して平らな道ではなかった けれど確かに歩んで来た道だ」「いくつもの日々を越えて 辿り着いた今がある だからもう迷わずに進めばいい」この3年間の日々は、すべて意味のある日々だったと思います。本当に平らな道ではなかったかもしれませんが、確かに自分の足で歩み、今ここにいることをしっかりと噛みしめてほしいと思います。

卒業は『別れ』であります。『新たなる出発』でもあります。将来の夢や希望に向かって、新たな人生の一步を踏み出してください。皆さん一人一人には、大きな力と無限の可能性が 있습니다。その力と可能性を信じ、どんなことにも最後まであきらめず、全力で取り組んでください。皆さんの前途が、洋々たるものであることを祈念しています。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。義務教育が終了し、感慨もひとしおのことと拝察いたします。これからの時代は変化の激しい、また予想できない時代となることが間違いありません。失敗や、挫折することもあるかと思いますが、今まで通りやさしく背中を押して、見守ってあげてほしいと思います。結びに、本日卒業生を祝し、ご臨席いただきましたご来賓、保護者の皆様に重ねて御礼申し上げますとともに、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、この場をお借りして、あらためて御礼申し上げ、式辞といたします。

校長 笹本 匡澄

## 在校生送辞

日の光が少しずつ暖かくなり、うららかな春の香りを感じられるようになりました。この良き日に、千城台西中学校を卒業される3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方は西中で過ごしてきた3年間をどのように思い出されていますか。仲間との思い出が詰まった3年間はきっと、あっという間に過ぎ去ったことと思います。

2年前、この千城台西中学校に入学してきた私たちは、新しい環境に上手くなじむことが出来るのか不安な気持ちでいっぱいでした。そんな私たちに先輩方はいつも優しく、親身に接してくださ

いました。それから今日に至るまで先輩方は常に私たちの先頭に立ち続け、お手本となってくださいました。その姿はたくましく、とても格好良く感じました。

猛暑の中行われた体育祭。今年度からクラス対抗になり、これまでに増して、先輩方の体育祭に懸ける情熱が感じられました。応援合戦では、応援団の先輩方が中心となって熱い応援を送り、盛り上げてくださいました。私が特に印象に残っていることは、学級対抗リレーと大縄跳びです。学級対抗リレーでは各クラス、協力して最後まであきらめずにバトンをつないでいる姿はとても勇ましく、応援している私たちの心まで熱く燃え上がりました。大縄跳びでは、練習の時の記録を1回でも更新することを目指して一丸となり声掛けをする様子、競技が終わった後、クラスの垣根を越えて、労う姿に学年の絆の深さが伝わってきました。クラスが一丸となり、ホール全体に美しい歌声を響かせた合唱コンクール。実行委員が中心となって練習を進めていく中で、たくさんの意見がぶつかり合い、うまくいかないこともあったでしょう。それでも、毎日、3年生のフロアから聞こえてくる歌声で「私たちももっと頑張ろう」という気持ちになりました。迎えたコンクール当日。ステージに立つ先輩方の真剣な眼差しと、会場を包み込むような美しいハーモニーがホール全体に響き渡っていました。仲間を信じて歌う。先輩たちの作り上げた合唱は私たちの目標です。

そんな先輩方も今日、この千城台西中学校を卒業し、それぞれ新しい道へと進まれます。その道は決してたやすい道ではないかもしれませんが。大きな困難や苦しいことが待ち受けているかもしれません。しかし、困難に負けず、尊敬する先輩でいてください。どんなときも優しく、頼りになる先輩方と過ごした2年間は私たちの誇りです。これからも今までのように明るく輝いていてください。先輩方がこれまで築き上げてきた西中の文化、伝統は私たちが受け継いでいきます。私たちはそれぞれの道を歩んでいく先輩方をいつまでも応援しています。

最後になりますが、先輩方のご健康とさらなるご活躍をお祈り申し上げ、これまでの感謝の気持ちを込めて送辞といたします。

在校生代表 N.K.

## 卒業生答辞

25656。この数字は僕たちが入学してから今日まで共に過ごし、積み重ねてきた時間です。二五六五六時間。みなさんはこの時間を長かったと感じるでしょうか、それとも短かかったと感じるでしょうか。僕は、こんなにも積み重ねてきた時間が、今日で終わってしまうのだと思うと、悲しい気持ちで今ここに立っています。

3年前の春。入学式。まだ少し肌寒い中、少し大きな制服に身を包み、中学校という新しい環境への緊張を感じながら門をくぐりました。中学校生活にも慣れてきた頃に行った、成田への校外学習。まだ夏の暑さが残っている中みんなと食べたアイスの味は今でも覚えています。3月。わからないことばかりだった僕たちに、いつも優しく接してくれた3年生の卒業が近づきました。感謝を伝えるための予餞会での合唱。学年のみんなで歌声を合わせ、思い切り歌いきったときの達成感は、まだ未熟だった僕達の自信となり、2年生になることへの期待が高まりました。

学校生活に完全に慣れた2年生。後輩ができ「先輩」と呼ばれることになんとか照れくささも感じました。夏が過ぎ、徐々に自分たちが中心となって活動していくことが多くなると、自分の成長を実感するとともに、上手くできるのだろうかという不安が芽生えました。2年生最大の行事である自然教室。福島の凍えるような寒さ。千葉では見ることのできない、美しく壮大な雪山。普段とはまったく違う環境で見せるいつもとは違う友の姿。仲間の成長と、学年としてのまとまりを感じ

ました。

全ての物事に最後という単語がつくようになった3年生。最高学年としての責任の重さを感じ、3年生という憧れの存在になったことに感慨深さがありました。新しいクラス。まだ不安が残る中で体育祭。今年からクラスごとに赤、青、白の3色に分かれて戦いました。どのクラスも一番になるために、後悔が残らないように全力を出し合いました。日差しが突き刺すような暑さの中、熱い気持ちを込めて全力で応援してくれた応援団長。初めての3色対抗での実施の中、絶対に成功させるという気持ちを持ち、みんなを支えてくれた実行委員。すべての思いが重なって3年間で一番白熱した体育祭になりました。そして、中学校最大のイベントである修学旅行。上高地の透き通るような空気と景色。善光寺で後先考えず買った木刀。くだらない話をして笑い合った夜。友とともに、一生忘れられない思い出を作りました。最後の合唱コンクール。どのクラスも最後まで勝利を信じ全力を出したことで、それぞれの思い、個性の重なりが若葉文化ホールに響きました。行事に真剣に取り組み、最後はみんなで笑い合える。それがこの学年の良さだと改めて思えた合唱コンクールでした。

そして秋。それぞれの選択のときが近づいてきました。自分の進む道を自分自身で決めるのは初めてで、何をしたらいいのか、何が正解なのかたくさん不安が毎日襲いかかってきました。そんなとき支えてくれたのは周りの人達でした。

先生。先生たちは僕たちに、いつでも真剣に向き合ってくれましたよね。今の僕たちは出会ったころより成長しているのでしょうか。迷惑をかけたことも、一緒に喜びあったことも、そして時には厳しく指導してくれたこともありました。僕たちのことをここまで支え、導き、見守ってくれたこと、本当に感謝しています。嬉しいことも辛いことも、自分のことのように考えてくれる先生達だったからこそ、充実した日々を過ごすことができました。3年間ありがとうございました。

お母さん、お父さん。15年間何不自由のない毎日を送らせてくれてありがとう。入試が迫る中、腹を立てて喧嘩をしたこともありました。でもそんなときもいつもと変わらない毎日を与えてくれたこと、本当に感謝しています。お母さん、お父さんの優しさが心に染みました。見えないところでいつも僕のことを支えてくれたことにやっと気がきました。まだまだ迷惑をかけることもあると思いますが、よろしくをお願いします。

在校生のみんな。これからはみんなが西中の代表として、活躍していく番です。みんなの良さである団結力と、一人一人のあふれる個性をいかして、みんなが楽しめる西中を築いていってください。いつでも自分らしくいることができるみんなならきっとできます。

卒業生のみんな、ついに卒業の日が来てしまいましたね。気付けばみんな背が高くなって顔つきも大人になって、過ごしてきた日々の早さを感じます。僕はこの3年間で、限られた時間の中で過ごす友達との日々の大切さを学びました。これから過ごす場所は変わってしまうけれど僕達の友情は決して変わりません。この学年の、うるさいくらい明るくていつでも互いに笑いあえる。そんなところが大好きです。今は悲しい気持ちでいっぱいですが、これからはまた新しい環境での毎日が待っています。これからも、個性あふれる僕達の良さを胸に、新しいステージへみんなで羽ばたいていしましょう。僕達、令和七年度卒業生96名は千城台西中学校で学んだこと、培ったことを決して忘れず、未来へ向かって自分らしく進んでいくことをここに誓います。僕たちの思い出の詰まった自慢の母校、千城台西中学校の益々の発展をお祈りし、答辞といたします。

卒業生代表 N.T.